

令和2年度 京都府立東舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>舞鶴地域の公立高校として、地域に根ざした教育活動を推進し、地域の活性化を図るとともに、地域から信頼される学校作りを目指す。</p> <p>1 日々の授業を大切にするとともに、学習指導・進路指導・生徒指導の3つを一体的にとらえ、きめ細かい丁寧な指導を行うことにより学力を向上させ、希望進路を実現させる。</p> <p>2 生徒一人ひとりが家庭・地域社会で認められ、学校生活の様々な場で成就感・達成感を持てる学校を目指す。</p> <p>3 教師と生徒が共同し、基本的な規範意識と倫理観、公共心や思いやりなど、人間性・社会性を育むとともに、安心・安全な学校づくりを目指す。</p>	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的な指導体制を確立し、継続的に指導を行った。「あいさつ運動」「身だしなみの徹底」等、生徒会活動につなげながら、年間通じたキャンペーンを行うことで一定の効果が得られた。 ・3年間を見通した進路計画に基づき、学年、進路指導部、各教科間の緊密な連携を図り、系統的な進路指導を行った。 ・活動の蓄積を目的とした「進路ノート」の活用、自主学習や個別指導とした学習室の使用等、進路意識向上に効果があった。 ・例年行っている地元を学び、良さを発信する取組だけでなく、SDGsに向けた舞鶴市の取組と緊密な連携を行った。 ・生徒会を中心としたボランティア活動の活性化に取り組むことで、ボランティア活動の意識が高まった。 ・出前授業等、小高連携だけでなく、合同での授業研究を行う等、中高連携も進んだ。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領への対応と探究活動の推進 ・ICT活用等、授業改善の推進 ・家庭学習等の自立的な学習の確立 ・行事の精選と充実 ・スマートフォンの適正な使用等を含め、規範意識の醸成に向けた生徒指導の充実 ・部活動活性化に向けた取組 ・教育相談体制の構築 ・生徒募集に繋がる効果的な広報活動 	<p>重点1 学校の魅力の向上とその効果的発信</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)新コースのもとでの地域創生の取組及び国際教育の推進 (2)「総合的な探究の時間」や各教科における探究的な活動の推進・開発 (3)SDGs達成を目指す地域の一主体としての学校づくり <p>重点2 新学習指導要領のもとでの教科指導及びキャリア教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)指導と一体化し、かつ希望進路実現に寄与する授業改善と評価の実施 (2)自ら進路を選択し希望を実現する生徒の力の育成 (3)新しい教育課程及びその内容の開発・改善 <p>重点3 教育相談活動の充実と特別支援教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)配慮を要する生徒の様々な背景等にまで踏み込んだ指導・支援の充実 (2)「包み込まれているという感覚」の中で、生徒の自律の力を伸ばす指導・支援の実施 (3)生徒の望ましい人権感覚と自他を尊重する行動力の育成 <p>重点4 豊かな心と自律の力の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)生徒の規範意識の向上と基本的生活習慣の確立 (2)18歳成人の施行を見据えた指導の充実 (3)生徒の自主的・主体的な活動の促進・活性化 <p>重点5 ICT環境整備とスマートスクール化の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)ハード面の整備の推進 (2)ソフト面の実践的研究への挑戦

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
重点1	5年後まで見通した地域創生の取組及び国際教育の推進・開発	<ul style="list-style-type: none"> ○コース・学年・部活動の垣根を越えた取組のスクラップ&ビルド及び再構成(プロジェクトチーム) ○自治体や企業との連携強化、地域の人材の発掘、外部講師による講演・WS機会創出 ○公費支援での海外研修・留学の増加につながる積極的な案内・指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、判断に迷いながらも工夫をして様々な行事を行うことができた。さらに生徒の成長につながる計画を今後も実施していきたい。 ・本年度の留学事業は全て中止となったが、舞鶴在住の外国の方や海外で活躍されている日本の方を招き興味関心を育てる機会をもてた。次年度の留学への指導を始めている。 ・1年生の探究活動は、担当者会議を各学期2回開いて指導を進め、生徒がより積極的に活動できるように成長させることができた。次年度に向け学習内容・順序等ブラッシュアップしていきたい。次年度の2年生の探究の時間に向けプロジェクトチームで検討を重ねて骨組み作りを行った ・ボランティア活動を通じて地域貢献に励んだ。地域の課題に協力する交通指導を実施した。 ・学校案内、HP、インスタグラム、広報誌、紹介動画のイメージを統一し、計画的に広報活動を行った。地域や中学校から好評をいただいた。 ・ホームページのデザインを見やすく改良しほぼ毎日HPを更新した。掲載する情報の内容や発信方法について改善していきたい。
	1年次「総合的な探究の時間」の実践推進、2年次以降の探究的な活動の推進・開発	<ul style="list-style-type: none"> ○1年担当者の定期的・機動的な打合せ実施 ○1年における基礎的な探究スキルに係る研究実施と次年度に向けた記録の蓄積、併せて生徒による評価の実施 <p>【評価項目】アンケートの肯定的評価の割合(%) A: 85% B: 75% C: 65%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○R3年度に向けた2年次の「総合的な探究の時間」の在り方の研究と計画立案(プロジェクトチーム) 	A	
	学校として、SDGs達成のための学びと行動の場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○ネパール(文具贈呈)や国際的支援機関との交流促進など生徒会・委員会活動を中核とした国際交流活動の実施 ○教科指導や部活動などにおける本校の施設・設備を活用したSDGs推進機会の創出や校種を越えた合同事業の研究 ○地域のボランティアイベントへの参加、地域住民を招いた校内イベントなどボランティア活動を通じた地域貢献の実施 	A	
	わかりやすく効果的な広報活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○わかりやすく相手目線に立ったホームページや広報誌の発行 <p>【評価項目】年間の更新・発行回数 A: 200更新・6回発行以上 B: A未満</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページのデザイン、学校案内の改善、多様な広報媒体の研究 	A	
重点2	各種改革を踏まえた体制整備と教職員の認識深化	<ul style="list-style-type: none"> ○高大接続改革の動向の確実な情報共有及び新制度入試に対応する進路指導の道筋・体制の構築 ○各教科の特色を生かした公開授業、出前授業及び合同授業づくりの実施(中学校との連携のもとでの実施) ○教職員の持つ面談機能の更なる向上、そのための情報共有と研修実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中高での教員研修を行い、観点別評価についても研修を行うことができた。高大接続改革の動向に注意し、教科主任会を核に教科内研修も進め、情報共有を図っていきたい。 ・総合的な探究の時間を通して、教

		○「指導と評価の一体化」や観点別評価に関わる小・中学校向けの研修素材や指導成果の研究			科横断的な学習に取り組んでいる。
	教科指導充実・進路希望実現の基盤形成 (生徒のキャリア形成に寄与するような支援、能力の開発、社会性・職業観等の涵養、生きる意欲の促進など)	○学年・分掌が一体となった身だしなみ・挨拶・時間の遵守等の指導の強化、叱責・承認・褒賞などを最適に実施するチーム指導・支援の実施 ○指導・支援の場としてのSHR・LHR、学校行事の重視 ○各場面での話し合い活動の機会拡大への挑戦 ○各分掌・学年の「たより」等の発行と効果的活用、保護者との連携深化 【評価項目】学校全体の年間発行回数 A：20回以上 B：14回 C：10回	B	B	・学校祭の内容について、生徒会を中心に話し合い活動の充実を図り、感染拡大防止に工夫して実施した。 ・感染拡大防止のため、取り組めない活動も多かったが、ボランティア部を中心に新たな活動に取り組んだ。 ・LHRの時間に、自己分析を行い、自己の生き方・在り方について考察し、自らのキャリア形成の方策などを調べる活動を集中的に行った。舞鶴市等と連携したワークショップなどにも取り組みたい。
		○福祉や子育て支援等の関係機関との連携によるボランティア活動の積極的参加 【評価項目】年間の生徒一人当たり平均参加回数 A：1.5回 B：1回 C：0.5回 ○資格取得・検定への積極的挑戦		B	・キャリア形成の観点から、進路に関するオンライン説明会やマイプロ説明会に多数の生徒を参加させることができた。さらに、生徒が自らキャリアを創造しようとする意欲を育て、実行できる道筋を発見させる指導支援に努めたい。
	新しい教育課程及びその内容の開発・改善	○教科主任会議の継続的開催と更なる機能向上 ○校内の各教科の取組の相互研修 ○教科横断的な取組への挑戦			
重点3	配慮を要する生徒の把握、情報共有、支援方法の組織的検討、支援体制の整備	○教育相談会議の定例開催・機能強化と部長会議での継続的な情報共有、ケース会議の開催 ○「個別の指導計画」等の確実な作成 【評価項目】中学から継続支援生徒の作成率(%) A：100% B：90% C：90%未満 ○定期的なスクリーニングの実施、アセスメントシートの効果的活用	B		・生徒指導、保健、人権担当での定期的なスクリーニング会議を実施しSSWやSCとも連携して配慮を要する生徒への対応を早期に検討することができた。 ・関係分掌で連携して生徒の情報を共有し、教育相談会議やケース会議を経て丁寧な支援を行った。「個別の支援計画」を作成し、教科指導の工夫をさらに進めることが課題である。
	まなび・生活アドバイザー、スクールカウンセラー配置校としての学校運営	○まなび・生活アドバイザーの有用性の理解浸透、活用できるコーディネート機能の強化 ○スクールカウンセラーの有用性の認識深化、要支援者とその保護者への積極的な活用促進	B	B	・急な状況変化への対応にSSWを交えて検討することが増えた。 ・SCの来校日の増加で自然に生徒に接し心の安定に寄与してもらうことができた。適宜情報共有を図り、生徒・保護者の積極的な利用を促してカウンセリングを実施ができた。 ・生徒には上手な休み方を獲得させ、

	自他を尊重する生徒の行動力を育てる教職員の指導力の向上	<p>○研修の開催（教育コーチングなど）</p> <p>○学校行事等において、自分にできる方法で生徒が集団に貢献する行動を促したり、集団づくりを促進する指導・支援のノウハウの相互提供</p> <p>○いじめアンケートの充実とその結果の綿密な分析に基づいた、いじめ対策委員会での見立て・手立ての立案（生徒個別対応、HR活動の取組、分掌・教科、保護者との連携内容等）</p> <p>○生徒の不適切な言動への、その場あるいは事後の確実な対応と情報共有実施</p>	B	<p>教職員は休ませ方を獲得したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元地域についての同和教育に関する教職員研修を実施した。 ・関係分掌の連携を密にして、臨時のHRも含めて、いじめや問題事象の解決、未然防止に向けて取り組んだ。引き続き組織的な対応に努め、密になる取り組みをさげながらも、いじめの未然防止、人間関係づくりを促進するための積極的な取組をさらに進めていきたい。
重点4	生徒の自律的な生活・学習習慣の確立	<p>○「進路ノート」の活用推進、記録の習慣化、蓄積したポートフォリオの定期的な振り返り指導の実施（学年共通）</p> <p>【評価項目】全学年の記入率(%) A:100% B:90% C:90%未満</p> <p>○学習時間・生活時間全体を見つめ、改善する指導の継続的实施</p> <p>○学習室の有効な活用による生徒の主体的学習態度育成、そのための環境整備促進</p> <p>○全教職員・生徒が自分から挨拶を励行</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路ノート」の活用によるワークシートなどの記録保存の習慣化は、個人差はあるものの定着しつつある。取り組みを振り返る時間を設定し、「キャリアパスポート」との連関も図っていきたい。 ・学習室を積極的に利用する生徒が増加している。 ・今後も挨拶を励行し、自然な姿で就職や進学活動を進めていく。 ・感染拡大防止に関して、一年を通して朝の検温・健康観察を行い、「ほけんだより」による時宜にかなった啓発や生徒会による放送などでの啓発を行った。保健委員会は文化祭で展示発表を行い、意識を高めることができた。 ・美化委員会は、文化祭でのリサイクル展示発表、ゴミ分別の啓発や臨時の環境整備活動を行った。次年度はゴミ分別と捨て方の指導を徹底し、自立の力を養いたい。清掃活動は概ね良好であった。
	生徒の保健衛生・社会安全への意識の向上	<p>○新型コロナウイルスの感染拡大防止に寄与する行動を促進する指導の確実な実施</p> <p>○生徒への啓発・指導手段としての「ほけんだより」の発行や保健委員会・美化委員会活動の促進</p> <p>○清掃活動の確実な実施と専念への指導体制の定着（時間中の指導・呼び出し等の禁止）</p>	B	B
	成人直前の存在としての生徒の自覚喚起とシチズンシップの育成	<p>○授業規律の確保、HRでの効果的指導をバックアップする教職員の指導体制の再構築</p> <p>○時間を大切にする意識、規範意識の確実な定着のための個別指導、警告指導の確実な実施とともに未然防止指導の実施</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の巡回や教科担当者連絡シートを活用し、規律を乱す行為には適宜指導を行うことができた。 ・遅刻指導に新しいシステムを導入

		○学校生活の課題を発見し、課題解決に取り組む姿勢を育てるために、「総合的な探究の時間」等において、日常生活の中から内発的に課題を発見させる取組を計画・展開		し成果があった。欠席が多い生徒には迅速に警告指導を行った。 ・2年生総合的な探究の時間で舞鶴の課題を考え、その解決に向けた探究活動を行った。 ・必要なときには「叱る」指導と小さなことから「認める」指導をバランスよく両立させることが必要で、そのための本人・家庭との信頼関係作りも継続していきたい。
	生徒会・委員会活動、部活動の活性化	○学校行事等の主体的な企画・運営の中核となる生徒会役員の育成 ○部活動・各種学校行事において、生徒の満足度・納得度を向上させるべく適切な目標設定 ○集団（小～大）の質を高め、意欲を喚起する指導・支援の実施	B	・多くの生徒が生徒会役員に就き、学校祭を中心に丁寧な話し合いを積み重ねる指導を継続している。 ・ボート部が全国大会で初優勝し、創立80周年記念式典の際に祝賀会を行った。
重点5	生徒の学ぶ向かう力を伸ばすためのICT化推進	○家庭学習の充実を図るため、動画配信などを積極的に実施(PT) 【評価項目】全教科での年間実施回数 A:10回以上 B:7回 C:5回 ○「総合的な探究の時間」において、PCやiPad等の機器を積極的に活用 ○生徒総会・文化祭等でのICTの積極的活用	A	・臨時休業時には、多くの教員が動画配信等を積極的に行った。 ・年度途中から機器の整備が進み、ネット検索を取り入れた教育活動を積極的に行った。担任用のiPadが配備でき、生徒との情報のやりとりがスムーズになった。 ・文化祭のステージ発表を他会場で同時配信できた。 ・総合的な探究の時間では、PCやiPadを積極的に利用した。 ・著作権やネットリテラシー教育など情報の授業との連携、教職員のICT活用能力の向上が必要、生徒個人の利用環境の整備、メンテナンスが必要である。
	教職員の働き方改革を進めるためのICT化推進	○広報業務、動画等作成の効率化を進めるため、デザインソフト・機器の導入と活用 ○業務負担軽減のため、校務システムの機能活用	A	・新たに写真編集ソフトとデザインソフトを導入し、広報誌やパンフレット制作に活用した。 ・遅刻指導等に校務システムを活用した。

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<p>臨時休業の影響が心配であった。SC の追加配置はよかった。卒業式で成長した生徒の姿を見てすばらしいと感じた。コロナ禍の状況の中 A または B の評価が得られておりすばらしい。「新型コロナウイルス感染症に対応した新しい初等中等教育の在り方について」(中教審)の提言に向け、今後も努力を惜しまないように。様々な状況においても多様な生徒を誰一人取り残すことなく、「学修的機能」「社会的機能」「福祉的機能」の学びの3機能の保障をしていっていただきたい。</p>
----------------------------------	--

<p>次年度に向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究活動及び I C T 活用等の授業改善を推進する。 ・ 新学習指導要領に基づく観点別評価について研究し、試行する。 ・ いじめの未然防止、人間関係作りの促進、SNS の適正な使用等を含めた規範意識の醸成に取り組む。 ・ 進路ノートとキャリアパスポートの連携を図り、活用していく。 ・ 教育相談体制を改善する。 ・ より効果的な広報活動を行う。
---------------------------	--